



# 愛知県議会議員

— 民主党 1期 —

## 中村 晋



458

衆院選を控えて各政党からマニフェストが提示され、マスコミは各政党の政策の違いや財源問題を、連日の報道の目玉にして騒いでいます。おかげでマニフェストという言葉もずいぶん普及したものと

昭和30年1月19日生まれ  
豊田市永覚町上長根 5-208  
全トヨタ労連顧問  
愛知県議会産業労働委員会委員  
同少子高齢化・人づくり特別委員会委員  
民主党愛知県議員団 政務調査会長  
民主党愛知県第11区総支部支部長代行  
豊田市ボウリング協会会長

### まず前回政権公約の総括から

選挙はこのマニフェストの有権者はこのマニフェストを比較し、最も自分の主張に近い政党・候補者を選択する「マニフェスト選挙」の意味は、ということになるのですが、果たしてマニフェストの機能はそれだけでしょうか。忘れてはならないのは、前回のマニフェストの棚卸しです。ある意味、理想を掲げた公約よりも、実際に前回の公約実現力はどうであったのか、それを評価した上で今回のマニ

フェストを評価してこそ初めて実行力の伴った政権公約としての判断となると思います。各政党に望むのは、まずはこの4年間の総括をお願いしたいということ。政権政党でない場合でも、公約実現に向けてどのような活動を進めてきたかは総括できます。さらに進めて、今後は公約実現に向けた進捗状況を定期的に有権者に報告する機会を設けることを望みます。4年経ってみたら結果です。

局々であった、では公約の意味がない。有権者の視線を感じながら活動し、政権公約を果たせず...という場合は自ら下野して責任をとる。そうすることで公約自体に重みができ、政党・議員の政策実現能力を高めることにつながると思います。さて、決戦の30日が迫ってきました。私たちは目先の公約内容だけに目を奪われることなく、この4年間の総括という視点も取り、間違いない判断を下すことが求められます。